

「ともにつくるサイセンタン！」企画提案募集
よくある Q&A

No.	質問	回答
未来館及び未来館の設備利用について		
1	被験者となる未来館来館者の内訳や来館者数を教えてください。	年間 100 万人が来館しており、そのうち 6 割が 18 歳以上の大人の方で、男女比はほぼ半々です。 また、繁忙期以外の土・日・祝日の平均来館者数は約 2000～3000 名、平日は約 1000～2000 名となっています。 また、近年海外からの来館者も、1 割以上を占めています。
2	電源や無線の利用、ネットワーク環境について教えてください。	事前に申請いただければ、未来館の電源を利用することができます。 Wi-fi 等無線についても電波帯を割り当てますので、事前に申請をお願いいたします。 ただし、大量の電源や独自のネットワーク環境が必要となる場合には、実験者側の負担で別途工事等をお願いする場合があります。
3	実証実験エリアに所属機関のロゴを掲示したり、幟などを使用して PR してもいいですか。	館内でロゴ、幟、キャラクターの掲示・使用・機関誌の配布やその他所属機関、研究室の宣伝とみなされる行為はお断りいたします。
公募について		
4	実証実験を行う費用が十分にありません。その場合には応募は難しいですか。	未来館では、本事業で行える実証実験は様々な実施形態があると考えています。 ワークショップを実施しながらアンケートを行う調査研究など、費用のかからない形式をご検討の上、ご提案ください。
5	今回ちょうど良い課題が無く応募できそうに無いのですが、下期や翌年度以降の実施分について、公募を行う予定はありますか？	今回の公募で採択数が 4 件に満たない場合には、2 次募集を予定しています(時期未定)。平成 30 年度以降の実施につきましては、現時点では決定しておりません。

6	いくつかの実験を一連の流れの中で同時に実施する必要があります。その場合は、1課題として応募してもいいですか。	1つの提案書に記載していただければ、1課題と見なして審査します。
7	公募以外の形で、未来館内で実証実験を行うことはできますか？次年度以降も継続して利用を検討していきたいです。	未来館の研究エリア入居者には、未来館と連携し様々な研究を進めてもらっています。その一つとして館内での実証実験も含まれます。継続的に未来館での実証研究を検討されている場合には、研究エリアへの入居も検討していただけると良いと思います。
実証実験について		
8	実施場所は公募要項に書かれている以外の場所は利用できないのでしょうか？	原則公募要項記載の場所で実施していただきたいと考えておりますが、別のエリアで実施を希望されている場合はご相談に応じています。実施場所のご希望がありましたら、様式1の「希望実施場所」欄に記載してください。
9	未来館のスタッフや科学コミュニケーターを調査対象とすることは可能ですか。	原則、来館者を対象とした課題を提案ください。スタッフ数名がリハーサル等で実験に協力することは可能です。
10	オープンスペースの一角に実証実験エリアを構築する場合、どのように設計したら良いですか。	実験に支障がない限り、衝立等の障壁は可能な限り少なくし、来館者どなたにも体験いただきやすいよう、実験エリアを構築ください。過去の事例としては、パーティションポール等のロープタイプの仕切りやテーブル等で実験エリアを構築しました。
11	「対話」の設計をしたことがありません。科学コミュニケーターはどの程度アドバイスしてくれるのでしょうか。	対話の手法が思いつかない場合には、提案書に、来館者とどういった課題について考えたのか、研究における課題や市民の声による改良の可能性があるのかなどをわかりやすく記載してください。採択された場合には、提案者の希望に添った対話が行えるよう、科学コミュニケーターが具体的な手法を提案させていただきます。

12	<p>「企画内容を安全かつ適切に実施いただける体制」とありますが、具体的にどの程度の人数が必要ですか。</p>	<p>実験の規模によりますが、以下の担当者各 1 名以上が常駐する必要があると考えております。休憩等の交代要員を含めると、最低でも 6~7 名の人員を確保されていることが望ましいです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 統括責任者（代表者又は実施者） ・ 実験補助者（1 名以上/1 実験） ・ 対話担当者 ・ 被験者誘導整理 ・ 運営全般（機器故障） <p>人数の確保が難しい場合には、1 回で実施する実験数を減らす、実験時間を区切る等の方法もご検討ください。</p>